

2022年11月11日

2022年度 研究者交流支援制度実施報告書

コーディネータ

職 格： 専任教授

氏 名： 池田敬

氏 名： ティータ スーツパット

所 属 機 関： タイ国、チェンマイラジャパット大学専任講師

招 聘 期 間：2022年10月15日～2022年10月29日（計15日間）

スーツパット博士とは、コーディネータが2017年に短期在外でオーストラリア、クイーンズランド工科大学に滞在した際に知り合った。すでに博士が所属するチェンマイラジャパット大学とはコーディネータが提案者となり、2015年に大学間協力(MOU)を締結しており、その縁も大きかった。これまで2019年に実施した本学からの学生引率において、学生8名の受け入れを頂き、その際、同博士には最も親密に親切に対応を頂いた。その際は学長はじめ同様の皆様より素晴らしい歓待を受け、学生同士で研究交流などを行った。またコロナ禍により物理的な交流が難しいことから、弊研究室では2年前よりズームにより、8カ国10大学とともに国際ワークショップを年2回開催しているがそれにも毎回参加頂いていた。

同博士が弊研究室に滞在された2週間において、学生においても非常に大きなインパクトがあったと確信する。ほとんどの学生達にとって、とくにコロナ渦においては海外からの訪問者は非日常であり、英語でコミュニケーションを取る重要性はもとより、海外の農業の現状や考え方の違いを伺うことは、授業などで聞く日本農業の現状と対比して考える上でも非常に貴重な時間であったと考えられる。タイ国における政治的な背景（前国王主導型プロジェクト）、地政学的な背景（隣国と国境を接していることなど）などから、農業に関わる取り組みをお話しくださったことは、どうしても自分の国の農業のみに注目してしまう学生にとって、考えたことがない、想像したことがないことを学ぶ、新鮮な経験となつてあろうと考えられる。

さらに、英語に関しても、この期間ずっと英語でコミュニケーションをすることになり、研究室内で常に英語が飛び交っている状態になったことは、学生にとって貴重な経験であったと思われる。博士には辛抱強く彼らの英語に耳を傾けて頂き、貴重なアドバイスを個々に頂いた。

期間中、学生を見ていて感じたことは、話しかける者とそうで無い者との差が大きかったが、徐々に博士がいること、英語を聞くこと話すことに慣れていき、最後は博士を囲んで膝をつき合わずように話をする、聞くという状態になっていた。コミュニケーションとは自分から進んで相手に近づいていかないと、貴重な機会を失うことを知ったと何人もの学生が話しており、これからも積極的に研究者にお越し頂き、学生との交流の場を設定したいと改めて感じた。

また、学生は全員タイに行ってみたくて言うようになり、今回の博士の訪問が学生にとってタイに親近感を抱くきっかけとなった。両国の関係発展に学生が寄与するかも知れないことから、博士の招聘は成功であったと言える。

今後も弊研究室およびコーディネータは国際連携を推進する。すでにコーディネータは今回招聘したタイ国、チェンマイラジャパット大学、に加えて、オーストラリア国、クイーンズランド工科大学、およびインドネシア国、ジャンピ大学、ウダヤナ大学との協力協定を確立した。せっかく確立したこれら協定を形骸化させずに、活発な活動ができるように注力する。また、さらにネパール、スリランカなど別の大学とも交渉を始めており、さらなる協力協定を結べるように推進していく所存である。

講義概要

【第1回目】

日時：2022年10月20日13時30分～15時10分

教室：植物工場センター研修室（生田キャンパス）

テーマ：Sustainable Agriculture in Thailand

使用言語：英語

講義内容：前王が指導したタイ北部のゴールドエンライアングル（大麻密造地帯）の浄化作戦（園芸作物への転換）による地域復興に関して、各地で行われている事例、特に新しい農業体系に関する考え方を紹介頂いた。

【第2回目】

日時：2022年10月26日13時30分～14時30分

教室：第1校舎5号館5-204（生田キャンパス）

テーマ：Postharvest Technology in Thailand

使用言語：英語

講義内容：収穫後の保存方法、輸送技術などタイでの事例をご紹介頂いた。特に日本ではなじみの薄い熱帯果樹の紹介とその果実の保存方法などについてご紹介を頂いた。

【第3回目】

日時：2022年10月26日14時30分～15時10分

教室：第1校舎5号館5-204（生田キャンパス）

テーマ：Cordyceps Mushroom

使用言語：英語

講義内容：タピンカエ博士が成功したキノコビジネスにおいて、我が国ではなかなか実施例を見ない、冬虫夏草の培養法およびその加工法について、発想に至った経緯、ビジネス化に向けて、また更なる方向性についてお話し頂いた。

補足として、御滞在中、JA 東京の方のコーディネートで、府中のキノコ生産者を訪問し、活発な情報交換を行った。また前述の、ズームによる国際ワークショップ（8カ国9大学参加）を開催した。

以 上